

# 授業改善書

科目名	東洋史特論 I (イスラム関係史)
担当者	登利谷 正人

## 授業の概要

授業ではイスラム教の成立した7世紀から現代に至るまでのイスラム諸王朝の興亡と統治体制、さらには文化・思想などを網羅的に学ぶことを通じて世界各地に拡大したイスラム社会の特徴について理解するための基礎的知見の獲得を目的とした。近年では身近なものになりつつあるイスラム社会の歴史全体を大まかに把握することで、イスラムという宗教が社会的に大きな影響力を有した各地域における社会規範や文化的特徴がどのようなものであるのかについて理解を深める。そのため、イスラム勃興期中東から北アフリカ・イベリア半島、さらには南アジアや中央アジアなど世界の様々な地域におけるイスラム社会の歴史・思想・文化について取り上げて講義を行った。

## 授業の問題点

授業は担当者が作成の上配布した授業用プリントを毎回配布する形にて、スライドを用いて講義形式で実施した。担当者側が授業時間中に一方的に話をする形で進めたため、授業中に生徒たちに質問・発言をする機会が提供できなかった点が最大の問題点である。授業中に生徒たちの発言をする機会を時折設けたものの、自発的な発言をする授業雰囲気を作り出すことが困難であった。授業内容に関する質問についても受け付けたが、ほとんど生徒たちからの質問が出されることがなかった。合わせて、授業時間外学習時間が不足していることも問題点として挙げられる。

## 学生の授業満足度

授業内容、および授業方法についての満足度は全体的に良好であるものの、授業で取り扱う内容が多岐に渡ったことで、授業進度がやや早くなる場合もあった。そのため、シラバスに記載した内容を一度の授業で終了できない場合もあり、生徒たちの理解が不十分な状態で先の項目に進むこともあった。

## 授業改善の課題と方策

最も改善すべき点は、生徒からの質問・発言を促すように授業全体を見直すという点である。特に、生徒たちからの質問や自発的発言が出やすいような環境整備を行うことが必要であると考えられる。そのため、担当者と生徒たちとの相互のやり取りをする機会を各授業中に設定し、生徒たちが質問や発言をし易いように工夫する。また、映像資料そのものの活用方法を見直し、生徒たちの理解を促しさらに関心を高められるような映像資料素材提示に努めたい。

## その他

授業外学習が不足しているため、今後は家庭内学習に取り組むような工夫、具体的には事前の予習や課題を課すなどの形で復習を促すなど、授業内容の理解深化に努めたい。